

TIJ 日本語教育研究会通信

No.59 2016.1.27 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 /Fax:03(5607)4102
E-mail: tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



2016年に入って、早くも一か月が過ぎました。本年もよろしくお願ひいたします。
今年も2月24日にTIJ文化発表会を開きます。プレゼンテーション、スピーチ、詩の朗読と、学生たちが日ごろの学習成果を発表いたします。皆様お誘ひ合わせの上、ご来場ください。

昨年12月に早稲田大学の学生さんたちとの交流会を開きました。その報告を本号に掲載いたしました。またTIJ募集担当のマレーシア出張報告と、獨協大学の学生さんの教育実習修了レポート、カンボジアの日本語教育についての報告も掲載いたしましたので、どうぞご一読ください。

【本号の内容】

1. 「TIJ文化発表会」のお知らせ
2. 早稲田大学生との交流会報告1 中級1クラス
3. 早稲田大学生との交流会報告2 初級3クラス
4. マレーシア出張報告
5. 教育実習修了レポート
6. カンボジアからこんにちは

「TIJ文化発表会」のお誘い

2月24日(水)にTIJ文化発表会を開きます。上級のプレゼンテーション、中級のスピーチ、初級の詩の朗読があります。TIJの学生たちが普段の学習の成果を発表する機会です。どなたでも参観できますので、皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。ご参加いただく場合は、メールまたは電話にて事前にご連絡いただくと助かります。

期日：2016年2月24日(水)

時間：午前9時30分から12時まで

場所：新小岩地区センター4階大ホール(新小岩駅南口より徒歩5分)

内容：上級クラス	プレゼンテーション
中級クラス	スピーチ
初級クラス	詩の朗読

早稲田大学生との交流会報告

昨年12月11日に早稲田大学生との交流会を行いました。午後1時から中級1クラスで「なりたい職業」というテーマで話し合いました。その後3時から初級2クラスで「ストレス解消法」というテーマでした。授業を担当した教師にレポートを書いてもらいました。

報告1(中級1クラス)

歌原祥子

12月11日、中級1クラスで早稲田大学の学生を招いて交流会を行いました。日本人側は早稲田大学国際学生友好会に所属する1年から3年の学生7名と、TIJで実習中の獨協大学4年の杉田さん、TIJ側は中級1クラスの学生18名。出身国はベトナム(9名)、中国(6名)、韓国、ミャンマー、インド(各1名)で、そのうち留学生15名、一般学生3名でした。

当日は学生2名または3名と大学生1名ずつで8グループを作り、話し合いを進めました。話し合いで色々な意見が出やすいように、また、お互いに頼り合わず、みんなが確実に発言するようにするため、違う国の人を組み合わせること、ふだんあまり話さない人同士を組み合わせること、の二つを考えてグループ分けをしました。

テーマは「子供の時になりたかった仕事」で、まず生命保険会社の実施した子供に対するアンケート結果を読み、続いて①子供の頃の夢、②自分の国で人気のある仕事、③将来の夢の3つの小テーマで10分ずつ話し合いを行いました。話し合いの後は、その結果を各グループから1人が立って発表しました。

子供の頃の夢が多かったのは、医師、スポーツ選手、芸能人、先生、食べ物屋さんが出ました。理由はカッコいい、有名になりたかった、などや、体が弱かったからお医者さんになって人を助けたいと思った、教えてもらった先生が好きだったから、など。食

べ物屋さんはいつもそれが食べられると思ったから、でした。国による違いはあまり出ませんでした。

自分の国で人気のある仕事としては、どの国でも医者、スポーツ選手、教師などが多かったようです。ベトナムでは警察官は人気だが、なるのはとても難しい、という話が出ました。中国の学生からは会社の社長という意見も出ました。

最後に自分の将来の夢（すでに社会人になっている人はなぜその職業を選んだか）を聞き合いました。TIJの学生からは、日本の技術と日本語を学んでIT技術者になりたい、日本で料理を学んで国で店を開きたい、国で日本語教師になりたい、ガイドになりたい、など具体的な考えが出ました。日本人学生も3年生からは、旅行会社に就職、ロボット技術を学んでいるのでそれを生かしたい、などが出ましたが、1年生の方は、何も具体的なことを考えていない、TIJの学生はそれぞれの考えがあってすごい、という感想を言ってくださいました。

3回の発表のうち、①、②のテーマではTIJ学生が発表、4人のグループでは③もTIJ学生が発表しましたが、メモを棒読みすることなく、全体に向かって自分の言葉で話せた人が多く、自信になったのではないかと思います。また、発表をしり込みする学生にも、あなたの意見は独特だからぜひ自分で発表したほうがいい、と励ましてくれた日本人大学生の心遣いがあり、とてもありがたいと思いました。

話し合い全体を通して、ふだん授業に集中できない学生も、いざ目の前に初対面の日本人が来て頼りになるのは自分の実力のみ、という場面になると意外にしっかり会話をしている、という印象でした。日本人の方々がとても和やかに明るく接して下さったことも大きかったですし、少人数のグループであまり緊張しないで話せたのもよかったですと思います。

この交流会は、同年代の日本人と接する機会が少ない学生にとってとても貴重な体験になったと思います。自分のことを細かく説明したり、深い意見交換をしたりすることで、ふだん学んでいる文法や語句をどう使えばいいか、少し実感してくれたのではないのでしょうか。

最後に今後への提案ですが、事前に学生に準備シートを書かせた際、教育学部で勉強している人と話がしたい、と書いた人がいました。難しいかも知れませんが、先方から来るメンバーについて前日にでも学部や専攻などが分かれば、少しでもこのような学生の希望に沿ったグループ分けができるのではないかと思います。できない場合は今回のように授業時間外で交流する自由時間を設けることが大切だと思います。



報告2（初級3クラス）

石井 温子

2015年12月11日（金）15:00～16:30の授業内で、初級3クラスの学生と早稲田大学の学生との交流授業を実施しました。初級3クラスの学生は17名、早稲田大学の学生は6名が参加。全6グループ、各グループ3～4名（大学生1名、初級3クラスの学生2～3名）に分かれました。

まず、自己紹介と質問タイム。10分間ぐらいを設定していましたが、グループ内でいろいろ盛り上がって話していましたので少し延長しました。

次に、この日の話し合いのテーマの「わたしのストレス解消法」を提示しました。グループ内で各人のストレス解消法について話し合いました。どうしてその解消法をするのかという理由も合わせて話し合いました。約15分間の話し合い後、各グループ代表1名ずつ話し合った内容について発表しました。全員の前での発表なので、簡単な自己紹介（名前と出身国など）をしてから同じグループの人のストレス解消法とその理由について紹介しました。話し合いの中で多かったストレス解消法は、たくさん寝ること、美味しいものを食べること、スポーツをすることなどでした。自己紹介まではスムーズにできましたが、他の人の話を聞いてそれを紹介するというのは学生にとってはなかなか難しかったようで、周りの学生に助けてもらいながら発表していたことが多かったです。



それから、「あなたのストレス解消法は？」という新聞記事のコピーを配布し、各グループでその内容について話し合いました。新聞記事に漢字記載が多いこともあったので、まずは大学生に漢字の読み方や内容について説明してもらってからスタートしました。それから、新聞記事内の自分がやってみたいストレス解消法について話し合いました。約15分間の話し合い後、前回の発表者とは違う学生1名が代表で各グループで話した内容を発表しました。2回目の話し合いの中で多く出た「これからやってみたいストレス解消法」は、チャンスがあればペットを飼うこと、衝動買いをすることなどでした。

その後、各グループで発表していない学生一人ずつに今日の感想を言ってもらいました。楽しかった、日本語の勉強をもっと頑張りたいという意見が多く聞かれました。

最後に、学生には「振り返りシート」に今日の自己採点、これから頑張りたいことを記入させました。これから頑張りたいことでは「漢字の勉強を頑張りたい」というもの

が一番多かったようです。

普段の授業ではあまり発話しない学生でも、自分の伝えたいことを一生懸命伝えようとしている姿がとても印象的でした。日本語の発音や漢字、知っている語彙の少なさなどの問題はありますが、この交流会がこれからの日本語学習意欲につながっていくと思われました。また、今後もこのような機会を継続して設けていくことが大切なのではないかとも思いました。

マレーシア留学説明会

阿字地道代

人口 3,009 万人、日本への留学生数約 2,300 人、出身国（地域）別留学生第 8 位の国、マレーシア。TIJ 多国籍化の次のターゲットとして、2015 年 9 月に行われた現地での留学説明会に参加しましたので、少し古くなってしまいましたが、ご報告いたします。

主催：大学新聞

運営：ライセンスアカデミー

後援：在マレーシア日本国大使館、国際交流基金、日本学生支援機構

第一会場：日時 2015 年 9 月 5 日（土）11:00～16:00

場所 ジョホールバル、KSL Resort

主催者発表入場者数 120 名（保護者を含む）

土曜日は現地私立学校は半日授業の日だったため、午前中は人が少なく心配しましたが、午後から少しずつ来場者が増えました。TIJ のブースには中学生から大学既卒者まで、また中華系の学生もありマレー系の学生もあり、様々な学生が説明を聞きに来てくれました。TIJ の通訳をしてくださった方が、ご自身が東京の日本語学校から名古屋の大学に進学し、日本で就職して暫く働いた後帰国して日系企業で働いたという経験のある方で、TIJ の学校説明はもとより、留学するとどのように将来の選択肢が広がるかというようなことをマレーシア人の立場で学生たちに話して下さいました。



第二会場：日時 2015 年 9 月 6 日（日）11:00～16:00

場所 クアラルンプール、St Giles Boulevard Hotel

主催者発表入場者数 305 名（保護者を含む）

クアラルンプールの説明会は盛況でした。TIJ のブースにも前日の倍以上の学生が来てくれました。ジョホールバルは学生同士のグループがほとんどでしたが、クアラルンプールは熱心な両親付き添いの学生が目立ちました。日本語がかなり話せる学生もいました。(国際交流基金の 2012 年の調査によると、日本語の教育機関はマレーシア全土にあり、中等・高等教育では 33,077 名が日本語を学んでいるとのこと。) 親御さんたちも日本に観光旅行で訪れたことがあり日本最良の感じの方が多く見られました。

説明会の翌日は現地の日本語学校や中華系の高校、JASSO(日本学生支援機構)などを訪問し、日本への留学希望状況についてお話をうかがいました。また、帰りの飛行機までの短い時間でしたが、クアラルンプールのホテルの傍のショッピングモールに行ってみました。イオンをはじめ日系の店舗や日本食レストランがたくさん入っていて、驚きました。買い物客の服装や豊富な商品から、人々の生活は豊かな印象を受けました。

今回の訪問をきっかけに 2016 年 4 月生として TIJ から初めてのマレーシア人留学生を申請することができました。来日の日を楽しみにしています。



教育実習を終えて

獨協大学 杉田真佑子

今回、TIJ での教育実習を通して、現場を知るという大変貴重な経験をさせていただきました。「日本語を話す必要性」「日本語で話したいという気持ち」が学習者に生まれるような授業作りをするという TIJ の方針は、今後自分自身の中でも大切にしていきたいと思いました。そして、同時にそのような授業を作るためには、実際の場面を意識した状況作りをしながらも、学習者のレベルに則した日本語を使用することが必要であると、10 日間の実習を通して学びました。

今まで教壇に立って、複数の外国人学習者に教えるという経験がなかったため、二回の教壇実習は、大変貴重な時間となりました。一回目の実習では、話題の提示から練習を担当させていただきました。学習者が、「この場面ではこのように言う」と自ら気づくことが出来るよう、教師が発話を誘導することの大切さを学びました。二回目の実習

では、話題の提示以外のほとんどを担当させていただきました。全体の流れを把握しきれていない状態で、授業に臨んでしまったところが反省点です。やはり、教師の焦りや準備不足は学習者に伝わってしまい、一回目の授業に比べ、積極的な発言が少なくなってしまうように感じました。冷静な心と臨機応変の対応力を持って、授業に臨むためには、事前準備が欠かせないと改めて思いました。

学習者の様子も、色々と知ることが出来ました。学習者は様々な思いをもって、日本語学校で勉強をしていると思います。しかし、学習意欲には差が出てしまうということを感じました。先生方が色々と工夫をして授業を考えていらっしゃる様子や、個別に指導していらっしゃる様子を拝見し、今まで思っていた日本語教師の仕事内容とは、全体の一部でしかなかったことを痛感しました。驚いた点は、早稲田大学の学生との交流会に参加させていただいた際、多くの学習者がとても積極的に発言をしていたことです。「日本語で話したいという気持ち」がとても伝わってきました。学習者の方が「普段は、工場で働いていて日本語を話す機会がない」と言っていたため、このように日本人と関わる場を作ることは大切であると思いました。

全体を通して、大学での座学では感じ取ることの出来ない日本語学校の様子を多く知ることが出来ました。このような機会を下さった TIJ の先生方、本当に有難うございました。この 10 日間で学んだことを大切に、日本語を教えるということがどのようなことなのか、これからも自分の中で考え続けていきたいと思えます。教育実習をさせていただき、本当に有難うございました。

カンボジアからこんにちは

大谷 洋子

2010 年に TIJ で教育実習をさせていただいた後、シンガポール、バングラデシュを経て、2012 年からカンボジアのプノンペンに住んでいます。シンガポールやバングラデシュでも日本語を教える機会に恵まれましたが、幸い当地でも民間のビジネススクールと、政府間プロジェクトで設置・運営されている機関で日本語を教える機会を得ました。私のささやかな体験をお伝えしたいと思います。

カンボジアというと、1970 年代の内戦、地雷などの暗いイメージが思い浮かぶかもしれませんが、地方はまだまだ貧しいところがありますが、首都プノンペンでは、高層マンションが建てられるようになり、日々新しい店がオープンし、TOYOTA の高級車がそこかしこで走っています。2014 年には AEON ショッピングモールもできました。

カンボジアではプノンペンと、アンコール観光の街、シェムリアップが日本語教育の中心地域です。シェムリアップではガイドなど観光業への就職、プノンペンでは日系企業への就職が主な日本語学習動機となっています。

プノンペンの民間の日本語教育実施機関は、NPO 団体、技能実習生の送り出し機関、人材斡旋事業者、老舗の日本食レストランなど様々です。多くの場合、授業料は無料あるいはコピー代程度です。そのため、日本から寄付を募って活動している団体も多々あります。日本で募集された有給の日本人教師がいる機関もありますが、多くはカンボジ

ア人の教師が教えたり、短期・長期滞在の日本人が無償あるいは薄給で授業を担当したりしています。

私も NPO 法人が運営するビジネススクールでボランティアとして日本語を教えています。この学校は、日本語の習得の他にビジネスマナーや人格形成に力を入れています。カリキュラムは 2 年制で、1 年目はフルタイム、2 年目は夜間のみです。学生は 20 歳前後の成人ですが、無料で授業が受けられるかわり、日本の昔の小中学校のような厳しい規則を守らなければなりません。入学時 240 人の学生が卒業時は 200 人ほどに減りますが、それでもドロップアウトが 1 年で 1 割ほどというのは、カンボジアでは驚異的に少ないです。実は、この学校の会話の授業では TIJ の「はじめよう日本語初級」が使われていて、メインテキストの会話の部分をコピーして学生に暗記させます。暗記と音読を重視する学校で、覚えてこない学生には紙に 100 回書かせたりするので（私はしませんが）、学生は必死に覚えてきます。暗記ができる反面、なかなか自分のことに置きかえて言う活動が難しく、最初に指名したペアを褒めたりすると、後に指名するペアは全部同じことを言ったりして困ってしまいました。

現在は、カンボジア—日本政府間の協力プロジェクトにより設立・運営されている機関で、週 3 回の授業のうち 1 回を受け持っています。カンボジア人と日本人の教師のチームティーチングです。学生は 20 歳前後の大学生や社会人が多く、アニメやコスプレなど日本のポップカルチャーに興味を持つ学生も少なくありません。コースで使用する教科書は、国際交流基金 (JF) の「まるごと 日本のことばと文化」で、JF スタンドに準拠し、扉ページでトピックと Can-do を確認した後、場面と語彙が提示され、練習問題で何度も音声を聞くことによって表現の意味を理解し、最後にモデル会話に沿って自分のことを話す、という構成になっています。カラー写真がふんだんに使用された教科書は見た目にも楽しいです。カンボジアで使用される教科書は「みんなの日本語」が主流ですので、2014 年に「まるごと」に切り替わったときは教師も学生も「Can-do? 文法の説明はしないの?」と戸惑いが見られましたが、今は問題なく、学生も楽しそうに授業を受けています。ただ、到達度テストとして行う筆記テストのできがあまりにも悪いので、今期からは課のまとめの文法問題を作成し、課ごとに宿題として出しています。

カンボジアでは、カンボジア日本語スピーチコンテストや JLPT の実施などの仕事も手伝っています。日本語教師として活動できることで色々な経験ができてありがたいと思っています。